

資源ごみの収集方法を検討せよ

総務 浅見 武志

月5

会開催 管す生

環境安全課 総務課
面の課題について調査し

項目

- ①資源ごみの収集方法の検討（生活環境安全課）
- ②電子入札の現状と今後の取り組み（総務課）

①玉村町 最近資源ご
のち去 発している

接出の 確実
収集を地区還
元き 拠 回収 集団回
収を検討してい
ち去 禁止条例を制定して
い 治体 当町
条例制定前 リサイクル
を推進し どの資源化を
標 している
②電子入札 ム

入札参加資格審査申請書

(指名参加願)の受

入札の公告・指名 知・入

札・札・落札 知・入札

結果の公表 の一連の

取 を電子化し インタ

ネット上

今年度 ム 500万円

を越 建設 測量・

500万円を越 測量・

建設コンサルタント(公共

水道 玉中解体)

電子入札を実施

①資源ご の回収 どの

減量化 今後住民を巻き

込んだ運 して 動せ

②平成 年4月 電子

入札の制度 全面 始

組 を理解し

今年度 早い業者 聞い

を越 建設 測量・

500万円を越 測量・

建設コンサルタント(公共

水道 玉中解体)

電子入札を実施

制度の 善を すべきだ

育成の 観を 入札

競争 町内業者

を越 建設 測量・

500万円を越 測量・

建設コンサルタント(公共

水道 玉中解体)

電子入札を実施

制度の 善を すべきだ

育成の 観を 入札

競争 町内業者

を越 建設 測量・

500万円を越 測量・

建設コンサルタント(公共

水道 玉中解体)

地元のは地元で 地産地消の推進を

済建設 村田 安男

当委員会は、9月5日委

員会を開催し、所管する経

済産業課の当面の課題につ

いて調査した。

項目

- 農畜産物の地産地消の推進

町では、関係機関と協力しながら地産地消事業を推進している。

今年5月に地産地消推進協議会を立ち上げ、具体的な協議を重ねてきた。今年度中の設置に向け、具体的な計画書の作成を行う予定である。

今後の、直売所設置についての協議内容は、単なる農産物直売所との位置づけから脱却し、

①消費者ニーズに基づいた品揃えを考慮した店づくり

②地域性を生かした物産館

的要素を取り入れた店づく

り

③消費者の利便性を考慮した設置場所の選定

などを協議する。

現在、国では食料自給率

向上のため、地産地消を推

進している。群馬県内9市

町村で、すでに推進計画が

策定済みである。

玉村町としても、先に記

述した直売所を基軸に、食

育としての学校給食などを

推進中である。

玉村町では、直売コーナ

ーによる農畜産物の販売を、

JA直売所・肉の駅・ヨー

クマート・両水の4店舗が

行っている。この事業を維

持拡大するためには、消費

者ニーズを的確に捕らえ、

年間を通じての生産体系の

確立が必要と思われる。

玉村町地産地消推進協議

会においての、しっかりと

した議論が必要ではないか。



子ども会による集団回収



採りたての地元野菜を販売する JA農畜産物直売所（たまむら店）

オープンスペースを活用し、多様な学習活動の展開を

文教福祉

中里 知恵子

月8

夏休

会開催 管す子
ども育成課 学校教育課
面 課題について調査

項目

- ① 保育所及び児童館の運営 (子ども育成課)
- ② 芝根小学校多目的スペースの利用 (学校教育課)

て 階部分 カ所のパ
イン イン をつ
パイ イン 教室
を木製の
引き戸 由 閉き
間 切 して
気性を考慮して 欄間を
け 様 つてい
夏休 を利用し
パイ イン を
パイ イン を
従来の問
善さ 学習環境
現場の声を
重視し 使い 修さ
こと 非常 喜ばし
い 今後 ペ
を作つ 意義をふ
効 用してい 有
待 期

ペ をつ教
室の特徴 普 の教室分
のペ のほ 廊
側 広い ペ をつて
い 広い空間を 用
して学習 を様 展
き しし
「騒音」「採光」
「換気」 ど 問題
効 用されてい 有
の学習環境を 善



芝根小学校の多目的スペースで、パーティションの説明を受ける委員

山ノ内町議会との交流会を実施

8月5日・6日の両日、昨年8月1日に姉妹都市提携を結んだ、長野県山ノ内町議会との交流会を行いました。

山ノ内町は知らなくとも、渋温泉、湯田中温泉、そして志賀高原といえば、多くの人が知っていると思います。草津町と接する御地は、玉村町の面積の約10倍あり、260km²あまりです。

初顔合わせということもあり、互いに自己紹介を行った後、話し合いに入りました。「玉中の生徒だけでなく、南中の生徒も職業体験ができないか。」「少年野球の交流試合を開いたらどうか。」など、これからの両町の充実した関係に、意見が集まりました。

二日目は、渋の温泉街や、玉村町にゆかりのある酒造美術館ギャラリー・玉村本店など、山ノ内町の名所を案内していただきました。

訪問した頃は、桃が旬の果物として販売されていたいました。11月に行われる玉村町の産業祭には、山ノ内町特産のりんご販売や足湯のコーナーが設けられます。多くの皆様に立ち寄っていただきたいと思えます。



山ノ内町役場で行われた交流会の様子